

2018年11月4日

第11回全日本スプリント開催経緯

(有) ヤマカワオーエンタープライズ
山川克則

本大会の要項の発行が大変遅れたことをまず深くお詫び申し上げます。規定の6ヶ月前仮申請はきちんとしておりました。本当は昨年選手権クラスの参加定員割れを受けて、こんな全日本スプリントで良いのか、と立ち上げた本企画ですが、まずは時系列的に起こった事実を述べさせていただきます。

1. 昨年CC7の前日という格好の設定にも関わらず、WEの参加が定員割れを起こしており(MEも有資格者150名の所参加60名と過去の同大会から大きく参加を減らす)、昨年主催の西村も私も全日本スプリントに対し大きな危機感を持つ(そのことはJOAニュースでも西村が総括を述べる。氏の財務分析では有償活力を正當に評価すればざっくりで赤字60万円、それをCC7の大きな参加費で補った形)。

2. 今年のCC7プロデューサー西村が、昨年CC7後今年のCC7をコラボするトータスに全日本スプリントの共催を持ちかけるも、過去に担当した(松本での)全日本スプリントの大赤字をもちだされ断られる。

3. JOA事務局ベースでも、各県協会には内々の打診が行われ、受託してもよい的な返答をした県協会があったが、選手権クラス定員割れや、大会の大赤字体質に対し何ら説明をしていないまま、地方協会丸投げしていることに、これではここ十数年の全日本ロングの二の舞になると私が更なる危機感を持つ(全日本ロングの改革の現場にいるからこそ、また来た道かという実感)。

4. 私とその内諾した県協会の重職の方とが直接会い(昨年12月某日)、スプリントも芯の通った中央管理の必要性、ここ数年の大赤字体質の運営(普段のパークOと全日本選手権運営との違いなど)を説明する。山川はオリエンテーリングバカなので、きちんと芯の通った行動を中央が誰もやらないなら自分がやると言い出すいつものパターン。

5. それならと、絶対に人を惹きつけられる市街地スプリントをインカレに続き郷里の大垣市で画策。内諾の県協会には一年開催を延期していただき、そちらにもボランティアで選手権にふさわしい大会となるよう協力する旨約束。

6. 再度の市街地スプリントを大垣市上石津町に企画提案し、折衝を続けるも、本年 3 月になって 2 年連続は地元も負担が大きすぎて勘弁してくれとの正式連絡が入る。つまり市街地スプリントは企画側も受入行政側も普通のパーク O の何倍もの手間がかかるのである。市街地でのインカレスプリントはその大量の工程を経てやっと実現したものである。〈市街地スプリントが断られた時点で企画としてはワタシ的には敗北している〉

7. 内諾した県協会を押しつけてでも開催を画策した責任上返上はないと思い、インカレ時に市街地スプリントが渉外的に無理だった場合のリザーブで打診していた本テレインにて行うことを 4 月に正式挨拶。岐阜県協会を立てて、月末 (6 ヶ月前期限) に開催仮申請。

8. その後は権の湖の全日本運営、2018 年度全日本 (ロング) 問題、と (私がより) 重要 (と思う) 問題が山積し、その間も JOA 中枢部が迷走を続けるので、きちんと芯のある活動をするように正すことに限られた時間とエネルギーを費やす。ここまででお盆過ぎまで費やす。

9. そうこうしているうちに本当に企画者の時間管理も破綻し始め (いつものことという突っ込みは置いておいて)、本要項の発行の遅れが限界にきた時点で、担ぎ上げていた岐阜県協会 (国営木曾三川公園を統括する管理事務所は岐阜県側にあり、渉外も岐阜県協会がチャンネルをもっている) が、主催を降りる・中止が妥当と通告してくる。(時を合わせたように、関ヶ原ミドルも公認では運営できない旨の決定を通告、その後、岐阜県協会は両大会の公認辞退書を送付。)

10. 関ヶ原の公認辞退は当然として、全日本スプリントは中止かもしくは選手権の継続を図るか、事態は競技委員会の規定による認可判断を超えて JOA としての経営判断に委ねられることに。その際、3 ヶ月前の本申請時に審査項目となる部分について説明を求められ、渉外面での了解、地図・コースを当日までに間に合わせ、(プロによる短納期であるならば) 十分に質を満たす提供が可能である旨の説明を提出。JOA 理事会にて、スプリントの選手権大会は継続すべきとの観点から、主要役員に JOA の中の者も就任することで開催することを決定。

ここまでの本大会開催に至る経緯です。同時に予算書を過去数年の実績からできるだけ正確に予測して作成し提出しました。勿論、どんなに事態が好転しても大赤字以外あり得ない内容です。それをおしてでも、スプリントの全国選手権を正しい形で継続していくことが将来に後悔を残さないと考え、赤字でも本大会の経理責任はすべて提案者の方で負うことを JOA に対しては確約しました。

なので、どんなに赤字になってもそれを私が理由にすることはありません。広報が混迷し遅れたことも大会主催者の責任ですので、そのことで一般参加者が減じるのもすべて大会企画者の責任である、それも当然の評価だと思います。

しかし、選手権としてはいかがでしょうか？ SNSなどで批判を言っていた人も選手権としての期待感の裏返しとして述べていたように思います。11月6日締切の3日現在のエントリー状況は、選手権として選手の側もそれを支えていただけるか非常に不安な危機感が準備側にもついています。(昨年定員割れを起こしたWEはたったの5名)

アフターでスプリントリレーを企画したのも、ちょっとでも売上アップなんてことではなく(そんなことしても、どう計算しても大赤字は確実です)、それで女子を誘って定員割れなんていう競技団体としてはずかしい事態だけは何としても回避したい、その思い入れ一心での企画です。

この大会が経営的にこけた大会になるのは一向に構いません。その責任を一手に私が背負うのも受容致します。しかし、選手権大会としてこけるのであれば、もう誰も全日本スプリントを引き受けようという団体は現れない、そういう危機感を私は抱いています。

慢性的な赤字体質も、うまく選手権大会として回るのであれば、あとは周囲の協力(押しのかた団体には私も来年の協力を約束しています)とレガシーの維持で、イチイベントとして全日本スプリントは赤字でも成立すると実は私も考えています。その有り様を実現したいのです。地方協会丸投げでも、すべてをボランティアで回す従来のオリエンテーリング界のやり方でも、芯さえ確固たるものだったら継続できる、レガシーを事後活用できれば地方協会もトータルではwin-winに出来る。そのことを参加する選手側で支えきれないような事態だったら、中央によるスプリントの選手権は今後開催なし、パークOと世界大会向けの選手選考だけ何とかどっかでやっていけばよい、そんな決断の時まで事態は来ている、と私は考えています。

命に関わる持病の中、そしてそもそもが通常業務も色々頼られて極めて忙しい中、許される範囲での活動でやっとここまで辿りついたものです。最後まで限られた残り時間・リソースの中で後進や周りの協力も仰ぎながら、出来る限りの大会となるよう、第11回全日本スプリント大会の準備に取り組みます。

山川 克則